

編集後記

昨年(2019年)の10月27日に I-LISS Japan Chapter の総会と研究大会が開催されました。Fredrik Ernerot 氏は私との個人的なつながりでスウェーデンから来ていただきました。彼とはその前の週は別の国際学会に共に参加し、そして会の後、彼は1週間我が家に滞在しました。毎晩酒を片手に夜遅くまで話し、非常に貴重な経験ができましたが、私は起きれば朝から大学で授業があるわけで、日常を取り戻すのにいくらか時間がかかりました。

そして、当時は輸出管理問題によって日韓関係が非常に悪化する中でいらしていただいた呉先生、金先生にも重ねて感謝いたします。今号には呉先生が講演をまとめられたものを掲載しております。

また、当日行われた研究発表2本も掲載しております。Fredrik 氏の報告は次号を予定しています。

総会では「国際図書館情報学会日本支部規約」について話し合わせ、副会長を1名から3名にすること、必要に際して顧問1名をおくことなどが改訂されています(今号 p.58-60)。前号掲載の「規約」(Vol.2 No.1 p.79-81)は「(案)」であり、細かく修正されていることを編集次長としてあらためてお詫びしなければなりません。合わせて、「機関誌の運用細則」(今号 p.61)が運用細則から独立し、

- 投稿原稿の種類として、“a) 論文, b) 研究ノート, c) 提言, d) エッセイ, e) 報告, f) コラム, g) その他”と定められた
- “投稿原稿は原則として編集委員会が査読を行う”と査読誌であることが明示された

と学術誌として整ってきたと考えております。また、現在のところ、“査読は最初2人の編集委員が行い、そこで不一致があった時は第3の編集委員も査読を行う”“最終決定は拡大編集委員会でされる”ことが申し合わせられました。

また、今号には2019年の7月12日から13日の台北の国立台湾師範大学で行われた国際図書館情報学術大会(ICLIS, I-LISS 本体の大会)に関連するものとして、志保田・山田・常世田三会員による報告とともに、山田会員による台湾の図書館の訪問記録を掲載することができました。

ただ、これを書いているのは2020年の3月末になってですので、もうずいぶん前のことに感じます。新型コロナウイルスによって外国との行き来ができなくなったと思えば、日本図書館研究会の大会も中止となり、あっという間に学生を大学に呼ぶことすら難しくなりつつあります。4月以降の授業の開始を1週間遅らせることが決まりましたが、今後どうなるかは全く分かりません。

Journal of I-LISS Japan が CiNii で検索できる <https://ci.nii.ac.jp/search?journal=Journal+of+I-LISS+Japan> ようになりました。ただ、I-LISS Japan Chapter の web ページ http://shihota.world.coocan.jp/top_page/lissaspac-jp.html では、全ての巻号が全ページ見られるようになっているのですが、J-STAGE には登録されていないので、CiNii からのリンクはまだありません。もう少し時間を頂ければと思います。

(編集次長 岡田大輔)